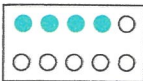
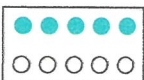
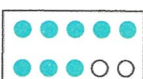
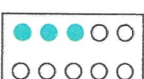


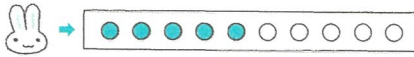
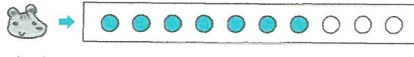


1 あつまりと かず

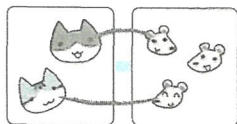
スタンダード

p.4_5

- 1 ①  ② 
- ③  ④ 
- ⑤  ⑥ 
- 2 ① 

- ② りす
- 3 ① () (○) ② (○) ()
 ③ (○) () ④ () (○)
 ⑤ (○) () ⑥ () (○)




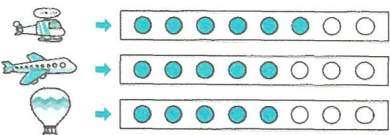
解き方

- 1 数えるもの1つに印をつけてから、○1つに色をぬらせるようにして進めていくとよいです。どの○をぬっても、数が正しければ正解ですが、ふつうは上の解答のようにぬります。色をぬるときのみまりとして指導しておきましょう。
- ④～⑥ 仲間分けの観点が2つあります。例えば⑥では、うさぎの仲間を○で囲ませ、その中でぼうしをかぶったうさぎの仲間を見つけさせるようにするとよいでしょう。
- 2 ② ①で色をぬった○を、1対1で線で結ぶなどして対応させて比べます。こうして余ったほうが多いと判断します。また、2つの数を比べたとき、一方が多ければ他方は少ないという関係も理解しているかどうか確かめておきましょう。
- 3 右の図のように、左と右のものを1対1で線で結んで比べるようにします。数を数えて比べられれば、それでももちろんよいですが、この方法も理解させておきましょう。



ハイレベル

p.6_7

- 1 ①  ②  ③ 
- 2 ① 9 ② 8 ③ 4 ④ 2
- 3 ①
- 4 ①  ② あ
- 5 ① () (○) ()
 ② () () (○)

解き方

- 1 3つは同じ仲間、1つはその仲間ではないとする観点を見つけます。①は、ナス以外はくだもの仲間、②は、青い魚以外は同じ種類の魚、③は、クマ以外はぼうしをかぶっている仲間という観点を想定しています。これら以外にも、お子さんが考えた観点が納得できるものなら、解答とはちがうものを選んでいた場合でも、正解としてよいでしょう。
- 2 仲間を見つけるということのほかに、数を数字で書くという要素が加わっています。まずは仲間の数を唱えさせ、そのあと数字で書かせるようにするとよいでしょう。数と数字との対応を確かめることができます。また、数字の書き出す位置や向き、書き順なども、あらためて確認してください。
- 3 3つの数を比べます。いちばん多いものを見つけるので、まずあといを比べ、その後に多いほうの数と③の数を比べるようにします。
- 4 飛行機と気球は数が同じです。「数が同じ」ということについても、あらためて確認させておきましょう。
- 5 数がいちばん少ないものを見つけます。まず、2つの仲間の数を比べてから、少ないほうの数と残りの仲間の数を比べるようにします。

2 10までの かず

スタンダード

p.8_9

- 1 ① 5 ② 3 ③ 9
④ 7 ⑤ 8 ⑥ 10
- 2 ① 4 ② 6 ③ 0
- 3 ① 7 ② 5 ③ 6
④ 8 ⑤ 9 ⑥ 10
- 4 ① 3, 6 ② 5, 10
③ 7, 4 ④ 10, 7
- 5 ① 7 ② 9 ③ 4 ④ 2

解き方

- 1 数を数えて数字で表すという、数の学習では基本ですが、最も大切な問題です。
- 2 青い風船の数だけを数えます。①, ②は、風船を青と白に分けるという点で、16ページの「数のいろいろな分け方」につながります。
- 3 青い風船は1個もないので「0」です。数が1つもないときは0と表すことを確認しておきましょう。なお、0は、10の0と同じで、上から書き始めることに注意させましょう。
- 3 まちがえた場合は、数字の数だけおはじきを並べて比べさせるとよいでしょう。なお、具体物の数を比べる場合は、「多い、少ない」といいますが、数字で比べる場合は、「大きい、小さい」といいます。この表現のちがいにも触れておくとよいでしょう。
- 4 このような数列の問題では、いくつつ大きく（小さく）なっているのかを考えるようにします。①, ②は、1ずつ大きくなっていて、③, ④は1ずつ小さくなっています。このことを考えずにいきなり書き出すと、例えば③では、8の次だから「9」とまちがえる場合が多々見られます。
- 5 ある数よりいくつが多い数や少ない数を考える、たし算やひき算へとつながる問題です。たし算やひき算のように考えることがねらいですが、数の並び方をもとにして考えてもよいでしょう。

ハイレベル

p.10_11

- 1 ① 3 ② 10
- 2 5
- 3 ① 9 ② 8 ③ 10
- 4 ① 8, 6, 5, 3
② 8, 7, 4, 2, 0
- 5 ① 3 ② 5 ③ 0
- 6 ① 3 ② 10 ③ 8
④ 6 ⑤ 4
- 7 ① 1 ② 2 ③ 4
④ 5 ⑤ 4 ⑥ 6

解き方

- 1 20までの数の学習へとつながる問題です。10のまとまりを数えたら○で囲ませると、あと何個あるかがわかりやすくなります。
- 2 1対1で対応させ、対応できなかった数が多い分の数になることを、あらためて理解させましょう。
- 3 数字の個数が多いですが、さほど難しい問題ではないでしょう。パッと見てすぐにわかるように練習させておきましょう。
- 4 すべての数を大きい順に左から書き出します。答えを書いたあとは、大小だけでなく、落ちている数字がないかどうか、見直す習慣もつけさせておくとよいでしょう。
- 5 数の合成や分解の学習へとつながる問題です。見えている玉の数を書いてしまう場合があります。そのときは、問題の意味を理解させ、もう一度挑戦させましょう。
- 3 ③ 入った数は1つもないので「0」になります。
- 6 たし算やひき算へとつながる問題です。数字の表す数を、具体物やおはじきなどにもどし、たし算やひき算のように考えてもよいですし、数の並び方をもとにして考えてもよいです。
- 7 2つの数の差を求める、ひき算へとつながる少し難しい問題です。とまどっているようであれば、おはじきなどを与え、2と同じように並べて、数のちがいを見つけさせるとよいでしょう。

1 あつまりと かず

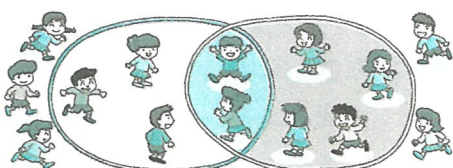
ハイレベル

p.84_85

- 1 ① ア 4 ① 5 ㊦ 6
⑤ 2
② ㊧ ③ は、青
- 2 () () () (○)
- 3 ① 5 ② 6 ③ 6 ④ 4
⑤ 2 ⑥ 3

解き方

- 1 ① ㊦では、水の中にいるカエルを○で囲ませ、その中から青いカエルを数えさせるとよいでしょう。
- ② ○で囲まれた仲間だけを表す言い方を考えます。㊦のクマの仲間や㊧のかさをさしている仲間は、○の外にもいるので正しい言い方は言えません。
- ③ ②と同様に考えて、葉の上という場所と、青いという色の観点を見つけます。
- 2 4種類あるので、見ただけではわからないでしょう。多そうなものを選び、線で結んで比べさせましょう。もちろん、数を数えて比べられれば、それでもよいです。また、2番めに多いものを選ぶことに注意させてください。
- 3 ①, ② 「青いロープの中」というときは、白いロープは考えずに、白いロープの中にもよいこと、「白いロープの中」も同様に、白いロープの中になれば、青いロープの中にもよいことを理解させてください。
- ③, ④ 「青いロープの外」というときは、白いロープは関係ないこと、「白いロープの外」というときも同様に、青いロープは関係ないことを理解させてください。
- ⑤, ⑥ ⑤は下図の青い部分、⑥は黒い部分になることを読み取らせましょう。



トップレベル

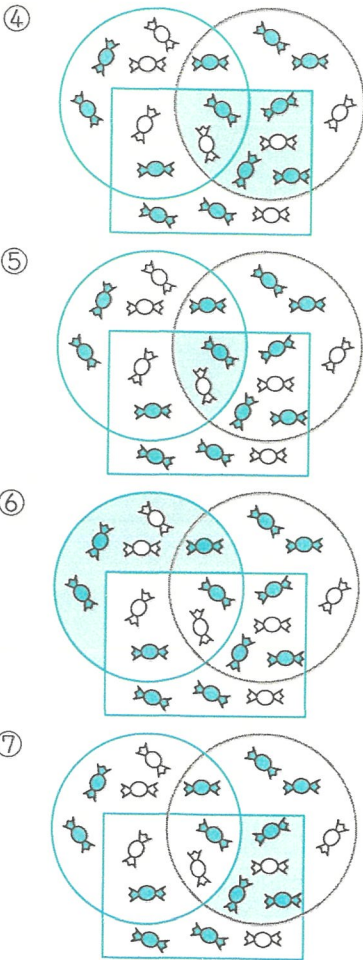
p.86_87

- 1 ① 青い ちょうの なかま
② とんて いる 白い ちょうの なかま
- 2 ① 7 ② 8 ③ 2 ④ 2
⑤ 5
- 3 ① 9 ② 7 ③ 3 ④ 4
⑤ 2 ⑥ 5 ⑦ 3

解き方

- 1 白と青という色による観点と、飛んでいるかとまっているかという状態による観点を考えて、囲まれたチョウだけにあてはまる言葉を選んで答えます。
- ① 色によって仲間分けできます。「チョウの仲間」だけでは不十分です。
- ② 「飛んでいるチョウの仲間」や「白いチョウの仲間」だけでは、このようなチョウは○の外にもいるので、○の中だけのチョウを限定することはできません。このように答えていた場合は、あとどういう条件を加えたらよいか、観点を示して考えさせてみましょう。
- 2 ③ 「いち」は、数字の1と●の両方をさします。意味がわからない場合は、説明を加えてください。
- ④ 「ろく」が出ているさいころに印などを付け、その中から白いさいころを数えさせるとよいでしょう。一度に選ぼうとすると、数え落としてしまうことがあります。1つ1つ当てはまるものを選んでいくように指導してください。
- ⑤ 青いさいころだけを見て、その中から、「に」、「さん」、「ご」が出ているさいころを見つけて数えさせるとよいです。
- 3 条件が少し複雑になってきます。前の問題と同じように、条件に当てはまる部分を順に見つけていくようにするとよいです。
- ①, ② ①では、黒い丸や青い四角がないものとして、②では、青い丸や黒い丸はないものとして考えさせましょう。
- ④~⑦ 条件に当てはまる部分は、それぞれ次の

青い部分です。



現場の先生から

- ①**集合を学習する意味** いろいろなものが描かれている絵の中で、あるものの数を数える場合、集合(仲間)を考えて数えなければいけません。また、たし算やひき算の話を作るときなども、例えば、木といすなど、集合のちがうものの数をたすのではなく、同じ集合の中で話を作ることが必要になります。このように、集合の考え方は、算数においてとても大切なのです。
- ②**数の多少** 数を比較する場合、この単元では、1対1で線を結ばせ、余ったほうが数が多いと考えさせます。逆に、足りないほうは数が少ないと考えさせます。数が多い、少ないの関係や、数が同じという概念を意識させることが重要です。
- ③**位置を表す言葉** 遠近、高低、前後、左右の言葉は、早めに身につけさせましょう。

2 10までの かず

ハイレベル

p.88_89

- ① ① さとし ② ともみ
③ 3 ④ 6 ⑤ 4
- ② ① 8, 10 ② 1, 9
③ 7 ④ 8
- ③ ① 5 ② 8 ③ 2 ④ 6
⑤ 3 ⑥ 1 ⑦ 7
- ④ ① あ ② い ③ あ ④ い

解き方

- ① 食べた数を考えるので、そのままでは考えにくいでしょう。まず、食べた数をそれぞれの近くには書かせると、わかりやすくなります。
- ③ えりかさん、さとしさん、かずやさんの3人です。
- ④ 2番めに多く食べた人は、かずやさんです。
- ⑤ 3番めに多く残した人は、えりかさんです。
- ② ①, ②は、2ずつ大きく、③は3ずつ小さくなっています。④は2ずつ小さくなっています。0から10までの数を横に並べて書かせ、わかっている数の並び方を矢印などで示すと、数の変化のしかたがわかります。

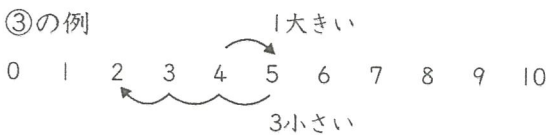
①の例



③ 考え方は次の2通りあります。

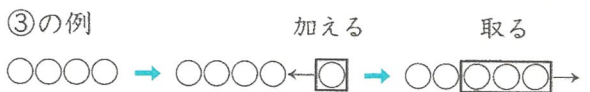
㊦ 0から10までの数を横に並べて書き、順にたどっていきます。

③の例



④ おはじきなどの数に戻し、たし算やひき算のように考えます。この場合、「大きい」は「多い」、「小さい」は「少ない」と考えます。

③の例



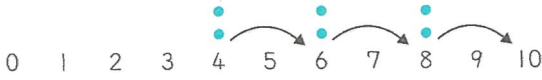
④ ③と同じようにしてそれぞれの数を求めさせてから、大小を比べさせましょう。

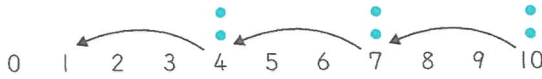
- 1 ① ●が 1こ ② △が 2こ
 ③ ○が 1こ, ●が 3こ
 ④ ●が 2こ, △が 5こ
- 2 ① 10 ② 4, 1 ③ 10
 ④ 0
- 3 あ 7 い 9 う 5 え 6
 お 4 か 6 き 8 く 10
- 4 ① 6 ② 5 ③ 4 ④ 3
 ⑤ 2 ⑥ 6

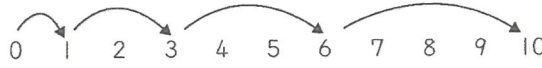
解き方

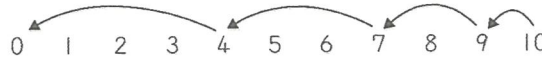
1 ○, ●, △の数をそれぞれ確かめていきます。足りないものは、あといくつで決められた数になるか、かき加えるなどして求めさせるとよいでしょう。

2 どのような決まりで数が並んでいるかを見つけることがポイントになります。0から10までの数を並べて書き、考えさせましょう。

① 
 4から2つごとに、2ずつ大きい数(1つ飛ばし)が並んでいます。

② 
 10から2つごとに、3ずつ小さい数(2つ飛ばし)が並んでいます。

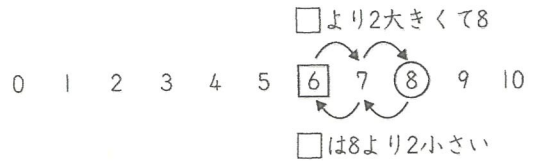
③ 
 増える数が、1, 2, 3, ...となっています。

④ 
 減る数が、1, 2, 3, ...となっています。

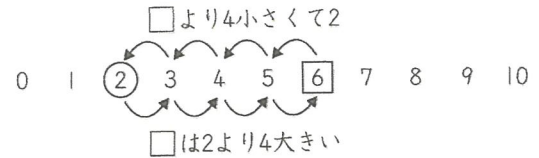
3 まず、□を通るといくつ小さくなるかを考えます。いちばん左の列では、5が1になっていることから、4減ることがわかります。あとは決まりに従って、次のように求めます。

- あ 5より2大きい数→7
 い 7より2大きい数→9
 う 9より4小さい数→5

え □より2大きい数は8→□は8より2小さい数→6

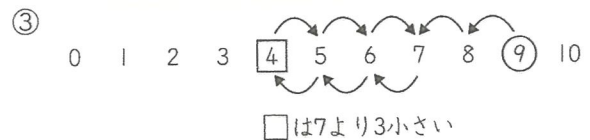


か □より4小さい数は2→□は2より4大きい数→6



お, き, くも同じように考えて求めます。

4 3と同じように、0から10までの数を書いて求めさせましょう。



④ 10より3小さく、さらに4小さい数を求めることになります。

⑤ 4より4大きい数を見つけ、10よりいくつ小さいかを求めます。

⑥ 2より5大きい数のさらに4小さい数を見つけ、6からたどっていきます。

現場の先生から

①数の理解 数は、具体物、●などで数を表した半具体物の図(数図)、数の言い方(数詞)、数字を1つのものとしてとらえることが大切です。例えば、花が3本あるとき、その数を「さん」といい、「3」と表せ、●が3個の数図をイメージできることです。こうして初めて数を理解していることとなります。

②数の唱え方 「1つ」を「いちつ」と読むお子さんが大変多いです。「ひとつ、ふたつ、みつつ、…」と唱える和語の数え方も、しっかり身につけさせておきましょう。